

能美市ライオンズクラブとのタウンミーティング

日 時 令和5年10月3日(火) 18時～19時

会 場 八松苑

参加人数 33名

1. 開会

2. 市長講演

○能美市の令和5年度事業施策

- ・能美市の事業施策は7本柱でできていて、5つの方針と目的を掲げている。
- ・今年には災害対策、市民力地域力の強化、知名度認知度の向上、自然動態の増進、DXの推進というこの5つを掲げ、移住定住の促進に繋げていく。
- ・災害対策は、昨年の大雨を受けてしっかりと対策を施していくということ。
- ・市民力地域力の強化というのは、能美市は、市民力地域力は大変高いまちだったが、、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴って人流が制限されたことで、例えば壮年団や、婦人会・女性会の人数が減少をしているだけではなく、解散もしたところもあると聞いている。ボランティア団体もこれまで最高で100あったが今85まで減っていることから、市民力地域力をどうやって強化をしていくかと今やっている。
- ・知名度認知度の向上は、国に行って私の名刺を出すと、「のうみ」市さんの市長さんですぬ言われる。のみ市となかなか読んでもらえない。北陸新幹線県内全線開業などの千載一遇のチャンスに、知名度認知度をいかに向上させていくか取り組んでいる。
- ・自然動態の増進というのは、人口が増える二つの要素、社会動態と自然動態の増です。引っ越して行く人よりも引っ越して来られる人が多いと社会動態が増になる。お亡くなりになる人よりも、生まれてくる赤ちゃんが多いと自然動態が増になる。
- ・子宝・子育ての施策を十分に、あるいはもっと長生きをしてもらうということで、この自然動態の増進に取り組んでいる。
- ・GXの推進はいわゆるカーボンニュートラル、CO2の削減をしていくということ。

○令和5年度能美市予算編成

- ・能美市の予算の状況です。令和5年度は268億円でスタートした。税収はおかげさまで令和5年度過去最高を更新した。これまで令和元年度が初めて90億円を超えたが、昨年度は90億9000万円と過去最高になった。
- ・税収が増えたことには二つの要素があり、一つは企業誘致が好調なことから、固定資産税が伸びている、もう一つは市内の企業が好調で税収が伸びているということ。
- ・財政状況ではいろいろな比率があるが、県内の各自治体や能美市と同じ人口規模の全国の自治体と比べても、能美市は財政状況は問題なく推移している。税収が伸びていることが最大の要因であると思う。

○災害対策

- ・治水対策では、最近効果があると思っているのは宮竹用水の停水。これまでは、大雨が降っても宮竹用水は手取川から水を取っていた。今回からは大雨が降りそうな時は、宮竹用水へ手取川から水を流すのを止め、排水として機能する様になった。
- ・西川熊田川も昨年大雨のときに溢水をした。原因の一つがバックウォーターという、手取川からの逆流。今、手取川との合流部に樋門を設置する工事が始まっている。
- ・鍋谷川では、県の事業で川幅を2倍に増やす事業が始まっている。西川熊田川の川幅も約2倍にする工事が始まっている。
- ・災害というのは自然災害だけではなくて交通事故、火事にも対応をしていく必要がある。ハザードマップの見直しをやり始めており、個別避難計画の作成も始めている。
- ・なかなか行政だけではいろんな避難を進めることができないことから、今福島グランパークに進出をしている企業さんと避難所の協力協定を結んだり、大手の重機レンタルメーカーと大きな被害があったときに、その重機を貸してもらうというような協定を結んだりもし始めている。
- ・交通事故の対策では、福岡小学校エリアにゾーン30というのを指定した。宮竹小学校エリアではゾーン30プラスというのを指定した。両小学校エリアとも大きな道が周りを通っていて、小学校の付近を抜け道にして猛スピードで走る車が何台もいる。スピードを30キロ以上出せないよう、いろんな施策をしている内の一つがゾーン30プラスです。次は辰口中央小学校エリアを指定する予定で、随時これを広げていき子どもたちが交通事故に遭わないように取り組んでいる。

- ・施設の老朽化も大変激しく、特に激しいのは学校。市内の11の小中学校の内、築50年以上が全体の35%を占める。これを随時直していかないといけない。
- ・まず建てたのが給食センター。現在辰口エリアの小中学校は給食センターから給食が運ばれているが、根上エリアと寺井エリアは自校式の給食。ところが学校の給食室も大変老朽化していることから、まずは給食センターを新しくしないといけないということで取り組んだ。
- ・保育園と児童館は全部で15あるが、7つが古い。これを順次新しくしていかないといけないことから、民営化に着手した。今福島保育園が民営化され、次は湯野保育園と緑が丘保育園が民営化され、園舎を新しくしていく。民営化というのは園舎が新しくなるだけではなくて、公営の保育園だと、いろんな事業と言うか園児に対する教育が制限される部分もあり、幼稚園にすると新たにいろんなことができることから、そういったご要望も多かったので、民営化して園舎も新しくし、かつ教育の範囲を広げるということもやっている。
- ・道路の案内看板です。市内に約2500ヶ所ぐらいあるが、一部はまだ寺井駅と書いてあったり、地図に新幹線の線路が走っていなかったりする。この看板も昔と必要度が変わってきていまして、今は皆さん目的地に行くのにほとんどナビで行かれてるので、こういった看板も必要じゃない。看板の表示の仕方も変えようと今順次見直しをしているが、かなり費用がかかるのでなかなか一度に進められない。
- ・災害情報を市民の皆さんにどうやってお伝えするのも大変重要。これまでは防災行政無線と市のホームページ、あるいはテレビを使ってお知らせをしていた。防災行政無線の受信機は、ほとんどのご家庭は居間か、台所にあると思うが、その場所になかったら聞き取れない。大量の情報を流したら、全部は把握できないことから、今LINEとメールで発信するようにした。災害情報だけでなく能美市のいろんな情報をお伝えしているので、ぜひお友だちになっていただければと思う。

○市民力・地域力、知名度認知度の強化・向上について

- ・市民力地域力の強化ということで、いろんなことをやっていて、やはりこういったイベントを開催をすることで、市民と市民が交流を深め新たな力が生まれてくるんじゃないかという想いでやっている。
- ・今年はいしかわ百万石文化祭、10月14日からいろんなイベント等が開催されるので

ひご参加をしていただければと思う。

- ・知名度認知度の向上ではいろんなことをやっていて、特に今年度は「シナモロール」を能美市応援大使にした。大人気で、もうシナモロールが来るだけで明るくなる。
- ・松井秀喜さんがモデルとなったアニメーションのPRビデオを作成した。松井さんが初めてアフレコをやった、声を入れたということが話題になって、全国ニュースで何回も取り上げられて、何度も能美市という名前が放送された。知名度認知度というのはこういうことなんだ、と改めて松井さんの知名度認知度の高さを感じた。このビデオをイオン白山の映画館でも流している。皆さんご覧になっていて、少しずつ今能美市の知名度が上がっていると感じている。
- ・他にも知名度認知度の向上をさせるために施設の整備もいろいろやっている。

○自然動態の増進について

- ・自然動態の増進ということから、子育て支援ということでもいろいろやっているが、特に大きく話題になったのは、給食費の無償化です。県外それから県内でも加賀市、小松市が無償化をしていって能美市はどうするんだと言われていたが、やはり物価高やエネルギー高等々があり、市内の中学生は2学期から、小学生は3学期から無償化した。ちなみに無償化すると、1年間の費用は約2億5000万。能美市が今年間の一般会計予算が約260億ですので1%。それを令和6年度からも続けるために、2億5000万をどう捻出をするか11月から検討を始めていくところです。
- ・健康寿命の延伸ではいろんなことをやっているが、能美市立病院のお医者さんの人数が今増えてきています。これ芳珠記念病院さんのご協力もいただいているんですけども、松任中央病院さんとの連携でいろいろと支援をしていただいている、やはりいい先生が病院にいらっしゃるということが、病院にどれだけ患者さんが来るかの大きなファクターになってきます。

○ゼロカーボンシティについて

- ・ゼロカーボンシティというのは、2013年に排出をしていたCO₂を2030年に半分にし、2050年にゼロにするのがゼロカーボンシティです。今やろうとしているのは、太陽光発電と蓄電池を組み合わせ、電力消費量を落としていくこと。皆さんご存知だと思いますが、電気は貯めておけない、発電したものをすぐ使わないと駄目です。太陽光の

場合は太陽が照っているときはどんどん発電するが、夜になったら発電しない。その夜の分を蓄電池に貯めておいて、平準化させて使えないか、今そんな取り組みをやろうと考えている。

○インクルーシブシティの取り組みについて

- ・能美市は今、インクルーシブシティというテーマでやっている。インクルーシブというのは、誰1人取り残さない、仲間外れにしないという意味で、地域共生社会という意味です。もっと平たく言えば、健康な人も高齢者も障害をお持ちの人も子どもも外国人も能美市に住む全ての人たちが安心安全快適に暮らしていってもらう、ということがインクルーシブシティです。
- ・それをデジタルの力を使っていろいろやろうと、高齢者、障がい者、子育て世代、子どもたちが自宅や保育園、学校、公民館を使って地域や庁舎でいろいろやっというのがこのインクルーシブシティ構想です。
- ・医療介護情報連携システムという、病院から退院して自宅で療養をする場合に、かかりつけ医さんやケアマネさんや作業療法士さんというのは、この方が病院でどんな治療を受けていたのか、今までどんな病気にかかっていたのか、どんな薬を飲んでいるのかというのは、実は知らされていない。カルテが別だから、それを共有できるようにしようということ。Web上のクラウドにデータを入れておいて、必要なときに必要な情報を取り出せるようにするのが、この医療介護情報連携システムです。
- ・お一人暮らしの方が具合が悪くなったときに救急隊が来たとする。救急隊が病院に搬送するのに、この人がどんな薬を飲んでいるのか、あるいはどんな病気にかかっていたのかを把握して、病院に搬送しなければいけないが、本人は具合が悪いから言えない。そういった時に、Web上のクラウドにデータを入れておいて、必要なときに必要な情報を取り出せるようにしようということ。
- ・もう一つは、認知症で家からいなくなってしまったときに、事前にその方の情報をスマホ等に登録させておく。事前に一緒に探すよ、協力します、と言っていた人にスマホで見れるようにする。これは既に始まっていて、地域住民による見守りシステムといます。
- ・IoT家電とはどういった物かということ、最近の空気清浄機は喋るんです。エアコンは設定温度を確認してくださいっていうことを、スマホで知らせてくれる。そして、

この空気清浄機やエアコンは、空気がどんな状態かをセンサーで測っていて、例えば安否が確認できません。ということスマホで教える。それから能美市と連携させておいて、今、大雨警報が発表されました。能美市から避難指示が発令されました。ということ言うようにできる。そうすると先ほど申し上げたように、能美市では防災行政無線でお知らせをしていますが、例えば寝室に行くと防災無線がないケースもある。そんな場合に寝室にこういった器具を置いておくと知らせてくれるようになる。

- ・避難指示などの最終的な情報だけでなく、いつも空気を分析していて、ちょっと健康状態が思わしくないんじゃないかということも知らせてくれる、そんな機器だそうです。それを今能美市として採用していこうとしている。
- ・能美市には、今1人暮らし世帯が約2600世帯いらっしゃる。そのうちの100世帯を対象にこれをスタートさせる。モデルケースでもあるのでいろんなことを検証して、さらに広げていこうと考えている。
- ・これはもう始まっているんですが、保育園では今日休みますという連絡を今はスマホを使ってできる。それから、保育園の先生が書くお知らせもメールになる。
- ・夜子どもが熱を出したりすると、相談する場所がなかったが、今はチャットで全部相談できるようになっている。うちの子もこんな症状なんだけどどうすればいい、どこの病院行けばいい、とチャットに入力すると返事が来るようになっている。
- ・電子カルテの統一化を今やろうとしている。これ何で統一するのかというと、先ほど申し上げたような、その大病院とかかりつけ医さんの医療情報を共有させるためと、例えば〇〇さんがAという病院に診療に行ったとする。そうするといろんな検査をする。そこで、今度はしばらくして、Bという病院に行った。おそらくBという病院も1から検査をする。それをなくそうということ。B病院に行ったときに、A病院で検査したデータを使って診療しようとなると、〇〇さんの医療費が安くなるし、診察にかかるまでの時間も短くなることもあり、今この電子カルテの統一化をしようとしている。これは患者さんだけではなくて医療スタッフにとってもすごく利便性の高いカルテを入れようとしている、他にもいろんなことをやろうとしているんですけども、もちろん市民がどれだけの利便性を感じられるか、安全安心に暮らしていけるかだけではなく、かかる費用を少なくしよう、携わるスタッフの皆さんの利便性も上げようと2次3次効果ももたらされることをやろうと取り組んでいる。

○おわりに

- ・またいろいろとこんなことがわからない、伝わっていないとか、こんなこと他にないかということがあったら是非お聞かせいただければと思う。

3. 閉会